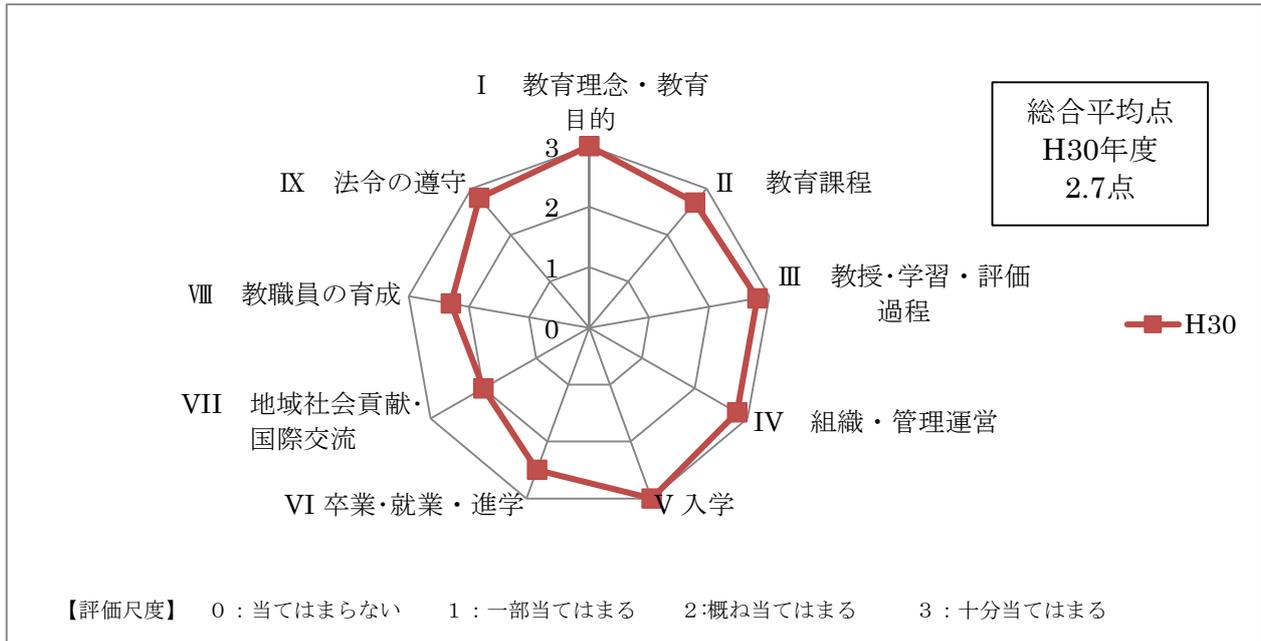


平成 30 年度 自己点検・自己評価結果 (平成 31 年 3 月実施)

JCHO 東京山手メディカルセンター附属看護専門学校



独立行政法人地域医療機能推進機構（以下 JCHO）の 7 看護専門学校において、共通した学校評価ガイドライン、JCHO 看護学校の自己評価表（案）に基づき自己点検・自己評価を実施しました。その結果について公表いたします。本校の教育活動その他の運営状況について客観的に評価を行い、よい面はさらに伸ばし、また改善すべき点は明確にしていきます。平成 30 年度の総合評価の平均点は 2.7 点で、評価尺度に照らしてみると「概ね当てはまっている」でした。地域医療に貢献ができる看護師の教育に力を入れ、常に学生とともに向上できる学校を目指し今後も努力いたします。

カテゴリー	分析・課題
I 教育理念・教育目的 3.0 点	教育理念・教育目的に基づいた学年別学級運営方針を年度初めに明示しています。また、地域医療機能推進機構の理念でもある地域医療、地域包括ケアの担い手として社会のニーズに対応できる看護実践者の育成を目指すことをあげ、組織を意識し、教育過程全体にいき渡るようにしていきます。
II 教育課程 2.7 点	毎年見直しを行い、検討しています。教員全員で講義や校内演習の指導案の検討をし、教授内容の共通認識をするとともに、担当を超えて学ぶことができるようにしています。学生による授業評価を担当講師にフィードバックし次年度の講義内容・方法の検討に活用しています。
III 教授・学習・評価過程 2.8 点	講義と実習が連動するように配慮し、教育計画を立案しています。平成30年度は、担当講師の変更がありましたが、学生の理解が深まるような講師の選択について検討をして決定しました。今後は、シラバスの内容を充実・改善することで学習の動機づけを行います。

<p>IV 組織・管理運営</p> <p>2.8 点</p>	<p>大規模災害に備えての防災訓練を実施し、災害時対応について学生とともに学びました。校舎の修理箇所に対しては、快適な学習環境、となるよう適時故障に対しては修理等を実施しました。</p> <p>学生の学習サポートとして、個別支援、クラス全体支援と二つの側面からサポートいたしました。今後も少人数制の利点を活かした支援を考えていきます。</p> <p>学生の心身両面の健康サポートとしては、学生カウンセラーの協力を得て支援できる体制をとっております。定期的な保護者懇談会の開催、電話連絡など、学校－保護者間で連携しながら学習支援体制に取り組みました。</p>
<p>V 入学</p> <p>3.0 点</p>	<p>入学生確保については、学校訪問、広報活動の増強、入試方法の改定により定員維持を達成しています。オープンキャンパス参加者、入試応募者ともに増加しています。今後もホームページを活用して学校の様子がわかるような取り組みをしていきます。さらに、オープンキャンパスの開催方法の工夫、公開講座等取り組んでいきます。</p>
<p>VI 卒業・就業・進学</p> <p>2.5 点</p>	<p>就職に関しては東京山手メディカルセンターへの就職率が 85%となっており、ほぼ大半を占めました。学校と母体病院との良好な関係性や、臨地実習で親切できめ細やかな指導を受けられたことが要因だと考えます。今後も学生の希望や個性にあわせて就職支援に取り組んでまいります。</p>
<p>VII 地域社会貢献・国際交流</p> <p>2.0 点</p>	<p>平成29年度は評点1.1点と低かったため、30年度は意識をしてボランティアを募り、協力してくれた学生への表彰等を工夫し、取り組みました。その結果学生たちがボランティアに積極的に参加する姿勢がうかがえました。</p>
<p>VIII 教職員の育成</p> <p>2.3 点</p>	<p>講義や実習指導に対しての準備のための教材研究時間を確保することが質の高い教育につながります。今後とも教職員相互の支援体制を整えてまいります。平成30年度、夏季休暇中の教員研修、学会参加も積極的でした。学びを学生の支援に活用できるようにしていきます。</p>
<p>IX 法令の遵守</p> <p>2.8 点</p>	<p>関係法令や看護学校設置基準等の遵守、個人情報の保護、学校評価（自己評価）等の項目において達成できました。学校運営に必要な規則規定等を整備し、教職員や学生に周知することで安全で安定した教育を実施できるように努力をしました。次年度は学校関係者評価の充実に計画的に取り組み、広い視野からの意見を取り入れさらに良い教育活動ができるようにしてまいります。</p>

平成 30 年度 学校関係者評価結果 (平成 31 年 3 月実施)

JCHO 東京山手メディカルセンター附属看護専門学校

JCHO 看護専門学校の自己評価表に基づき自己点検・自己評価を実施した結果に基づき、学校関係者評価を実施いたしました。その際、平成 30 年度重点目標について実施・結果・評価について報告し助言を受けました。その結果について公表いたします。

1) 総評

よりよい教育活動になるように、様々な取り組みをしている。初年次教育や、入学前教育への取りくみなど、注目すべき取り組みだと思うので、実施したことを評価して次年度に活かせると良い。

2) 学校関係者カテゴリーごとの評価

カテゴリー	分析・課題
I 教育理念・教育目的 3.0 点	教育理念・教育目的・目標が明示されている。地域医療機能推進機構の特徴はについてどのようにとらえて教育に反映させていくのかを明確にするとよい。
II 教育課程 2.8 点	教育課程を共通認識できるよう全教員で指導案検討の機会を持つことは継続していく。学生の授業評価についての講師へのフィードバックをシステム化するとよいのではないか。
III 教授・学習・評価過程 2.8 点	評価過程や、試験の時間配分、点数配分が明確になっていることは良い。試験時期を終講から離れないように計画できるとよい。
IV 組織・管理運営 2.5 点	施設維持は大変であるが、点検等行い学習環境を整えるための計画的な取り組みをするとよいのではないか
V 入学 3.0 点	前年度に比べて応募数が増加していることの要因を分析し、次年度の学生応募活動が効率的にできるようにするとよい
VI 卒業・就業・進学 2.5 点	系列病院との連携の取り方を具体化するとよい。

VII 地域社会貢献・国際交流 2.5点	学生へボランティアの意義を伝える時間を設けて働きかけてみると良いのではないか？地域住民への働きかけは難しいが、オープンキャンパスのように住民が参加できる企画をしてみると良いのではないか？
VIII 教職員の育成 2.8点	教員間の授業参観など、外部の研修だけでなく身近なことから取り組むとよいのではないか。系列看護専門学校との交流計画等立案したらどうか。
IX 法令の遵守 2.8点	学校関係者表についての取り組みを計画的にできるとよいと思う。

3) 重点取り組み項目についての評価

1. IV 組織・管理体制

学生生活の支援体制 学習困難者へのサポートシステムについて現在は、成績に応じて個人支援、テスト前のクラス全体への支援、2年次からの国家試験サポート支援を実施しています。

学生の主体的な取り組みになるための工夫が必要という助言をいただきました。

次年度からの取り組みとして、入学前から計画的に学習支援ができるような体制を整えていく予定ですので、実施したことを評価する時期を定めると良いという助言をいただきました。

2. V 入学

広報活動について

オープンキャンパス来校者の方が一人でも多く受験していただけるように、工夫をしていくため公開講座などを実施する予定であることを説明し、評価者の方の学校の取り組みについて助言をいただきました。

指定校推薦については、入学後も継続した関係性維持を心がけたい。評価者の方の学校では、高校訪問に力を入れているとのことで、その取り組み方法に助言をいただきました。

以上、学校関係者評価を受け、より客観的に学校の課題について認識することができましたので、今後の教育活動に活かしていきます。